

随想

洛友会会報

京都大学工学部
電気系教室内
洛友会
京都市左京区吉田本町

「エブリシングについてサムシング」

関西電力株式会社名譽会長
洛友会副会長 草原 原義重

このほど、「洛友会会報」の発行部数が五千部を越えた由、わが洛友会の隆盛の程を示すものであ

り、ご同慶に耐えない。

本誌については、各界における同窓生諸氏のご活躍ぶりや、母校、京大電気教室の発展の様子など、いつも楽しく、懐しく読ませて頂いており、毎号、手許に届くのを心待ちにしている次第である。

全国の会員を結ぶ本誌の編集に、日頃ご尽力を頂いている事務局の皆様方に対して、この誌上をお借りして、心から御礼を申し上げた

ところで、近年の科学技術の進歩はまことに目ざましく、エレクトロニクス、新素材、バイオテクノロジー、宇宙開発といった技術革新の波が次々と起こり、しかも、

それらが相互に結合し、或いは既存技術と融合して、さらに新しい技術やシステムの開発を促しつつある。また、これに伴って、経済社会の変化も一段と加速し、情報革命とか、新産業革命といわれる日進月歩の状況を作り出している。

これから二十一世紀へ向けて、

科学技術がどのような発達を遂げていくのか、それにつれて、社会

恒例になりました電気系教室の秋の懇話会を左記により開催致します。各分野でご活躍の諸先輩のご講演と引き続きビアパーティーを予定しております。先輩諸氏にも多数ご参加頂けることを期待しております。

第一部 講演会

- 一、私の卒業歴を回顧して
大谷泰之名譽教授(S13卒)
- 二、研究所生活よもやまなし
葉原 耕平
- 三、通信機械業界の現状と問題点
A.T.R副社長(S30卒)

〔卓球〕
橋本南海男
〔バトミントン〕
沖電気工業社長(S19卒)
第二部(5時頃より)
京大・阪大(10:5)

京大・阪大(2:1)

京大・阪大(10:5)

の枠組みの中で変化し、発展する
という姿ではなく、枠組みを突き破る横断的な変化というか、相互連関的な変革が進む時代であり、近頃、いわゆる「学際化」、「業界化」、或いは「知恵のネットワー

ク化」といったことが重視される。所以も、そこにあるようだ。真の教養人とは、「エブリシング」についてサムシングを知り、サムシングについてはエブリシング

の枠組みの中で変化し、発展する「を知る人である」と産業革命期の思想家J.S.ミルの言にあるそ

うだが、これから転換期の時代、創造的な仕事を携わる者にとって、参加者を得て盛大な大会とする記させて頂いた次第であるが、最後に、洛友会員諸兄の一層のご活躍をお祈りして、筆をおくこととする。

午後12時半に出発、阪大到着後メ

モリアルホールで開会式が行われ、

バス2台を連ねて京大正門前を

午後12時半に出発、阪大到着後メ

モリアルホールで開会式が行われ、

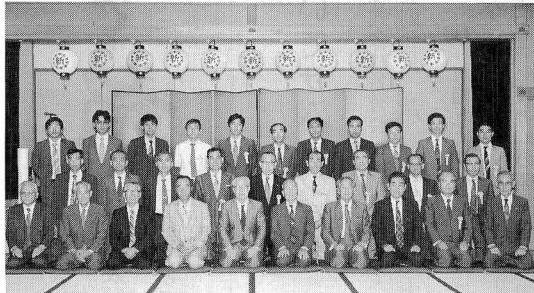
を発揮することなく勝利を手にして拍手抜けの感なきにしもあらずといった状態でしたが、電気系教室の狭い中庭等でしかやれない日頃の成果が発揮された(?)とみることもできましよう。

引続いて一五〇名以上の参加者により、阪大田口講師の司会で懇親会が行われました。阪大鈴木教授から優勝杯の授与、同児玉教授(電子)の乾杯の音頭で、選手はもとより参加者全員快い汗をかいその後のビルのうまさに酔い、大いに盛大かつなごやかに両大学電気系教室の親睦の実をあげることができました。最後に阪大中西教授(通信)の挨拶、京大藤田教授のお礼の辞をもって懇親会も終了し、来年京大での熱戦を誓いつつ午後7時頃散会致しました。

(藤田教室主任記)

教官の移動

前号以降つきのような移動がありました。
秋原朋道(昭和59年3月電気第二学科卒61年3月大学院修士課程修了)
昭和61年7月16日、電気工学第二学科大学院博士課程一年より自動制御講座(荒木研)の助手として採用。



第31回洛友会四国支部総会 昭和61年6月20日 於 新常盤

支部だより

第31回 洛友会

6月20日(金)高松市内の旅館「新常盤」において、第31回洛友会四国支部総会が開催された。本部から大谷名譽教授、西川教授の御出席をいただき、支部からは三〇名の会員が集まつた。

総会に先立ち、今春、大谷先生が叙勲されたことを全員で祝福しました。総会は、大谷先生のウイットととんだ挨拶に始まり、西川先生からの電気教室近況のお話の後、

7時頃散会致しました。

(藤田教室主任記)

や友人と酒を酌み交しながらの談笑など、楽しいひとときを過した。

翌日、大谷・西川両先生はゴルフを楽しめた後、無事京都へお帰りになつた。

以下は、大谷・西川両先生を御案内した辻本先輩の随行記である。

(昭和53年卒 安藤記)

6月21日(土)案内係は仲川支部長と私の二人で努めさせて頂いた。予て当日の天気は気がかりにて雨にならないよう願っていたが、早朝より霧雨模様にてあいにくの有様。しかし、気を取り直し、大雨にならないよう念じつつゴルフ場に向つて出発した。

小生ゴルフをやらない訳ではないのですが、予て承った所では両先生ともかなりのお腕前との事にて、小生のようなかけ出し者では何かと足手まといかと心得、お相手は阿部、近藤両先輩にお願いして専ら仲川先輩と碁を囲む手筈。

6月21日(土)案内係は仲川支部長と私の二人で努めさせて頂いた。予て当日の天気は気がかりにて雨にならないよう願っていたが、早朝より霧雨模様にてあいにくの有様。しかし、気を取り直し、大雨にならないよう念じつつゴルフ場に向つて出発した。

小生ゴルフをやらない訳ではないのですが、予て承った所では両先生ともかなりのお腕前との事にて、小生のようなかけ出し者では何かと足手まといかと心得、お相手は阿部、近藤両先輩にお願いして専ら仲川先輩と碁を囲む手筈。

6月21日(土)案内係は仲川支部長と私の二人で努めさせて頂いた。予て当日の天気は気がかりにて雨にならないよう願っていたが、早朝より霧雨模様にてあいにくの有様。しかし、気を取り直し、大雨にならないよう念じつつゴルフ場に向つて出発した。

小生ゴルフをやらない訳ではないのですが、予て承った所では両先生ともかなりのお腕前との事にて、小生のようなかけ出し者では何かと足手まといかと心得、お相手は阿部、近藤両先輩にお願いして専ら仲川先輩と碁を囲む手筈。

会務報告、予算審議、新役員の選出を行ない無事終了した。引き続き懇親会に入り、先生方との歓談の方が暑くなくて結構だよ」と云々久しぶりに顔を合わせた先輩方や久しぶりに顔を合わせた先輩方

や友人と酒を酌み交しながらの談笑など、楽しいひとときを過した。

さて、当ゴルフ場(志度カントリークラブ)は両先生には初出場組み恒例となつた「琵琶湖周航の歌」、「逍遙の歌」の合唱で懇親会を終えた。

翌日、大谷・西川両先生はゴルフを楽しめた後、無事京都へお

さすがは大先達だけあって後半はかなり好スコアを記録された御様子であった。

何はともあれ、当日は大雨にならなかつたのは幸でした。

(昭和37年卒 辻本記)

同窓会だより

グラフで見る洛友会会務の変遷

1.はじめに

洛友会が昭和27年11月23日に孤々の声を挙げてから早や34年日を間近に迎えることになります。

この間、洛友会会報が昭和28年8月に創刊されてから本号で一三七号を数え、発行部数も五千部を

特に当時、現職教授であられた近藤先生は、洛友会の発足から現在に至るまでの洛友会の諸事業、例えは会員数の変遷、諸事業などについて詳細に述べておられ、一読して興味のつきない記事であります。

しかし、この『30年史』は、記憶に新しいところであります。この『30年史』には、諸先生を

はじめて、諸先輩が会の結成の経過や、思い出、現況などを述べられています。

近藤先生は、洛友会の発足から現在に至るまでの洛友会の諸事業、例えは会員数の変遷、諸事業などについて詳細に述べておられ、一読して興味のつきない記事であります。

しかし、この『30年史』は、記憶に新しいところであります。

この『30年史』には、諸先生を

はじめて、諸先輩が会の結成の経過や、思い出、現況などを述べられています。

近藤先生は、洛友会の発足から現在に至るまでの洛友会の諸事業、例えは会員数の変遷、諸事業などについて詳細に述べておられ、一読して興味のつきない記事であります。

しかし、この『30年史』は、記憶に新しいところであります。

この『30年史』には、諸先生を

図1 会員数の変遷

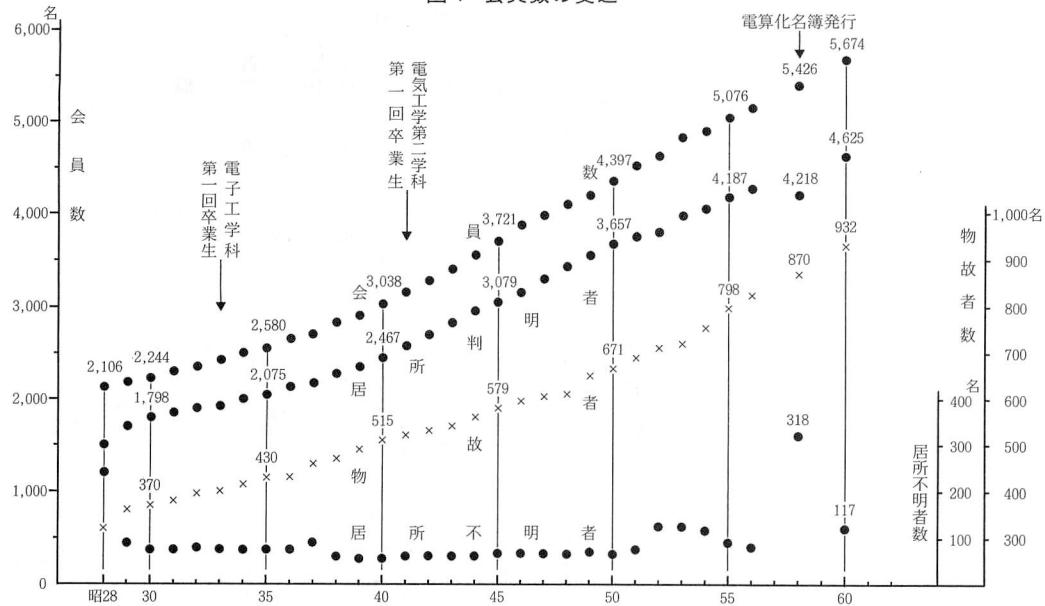
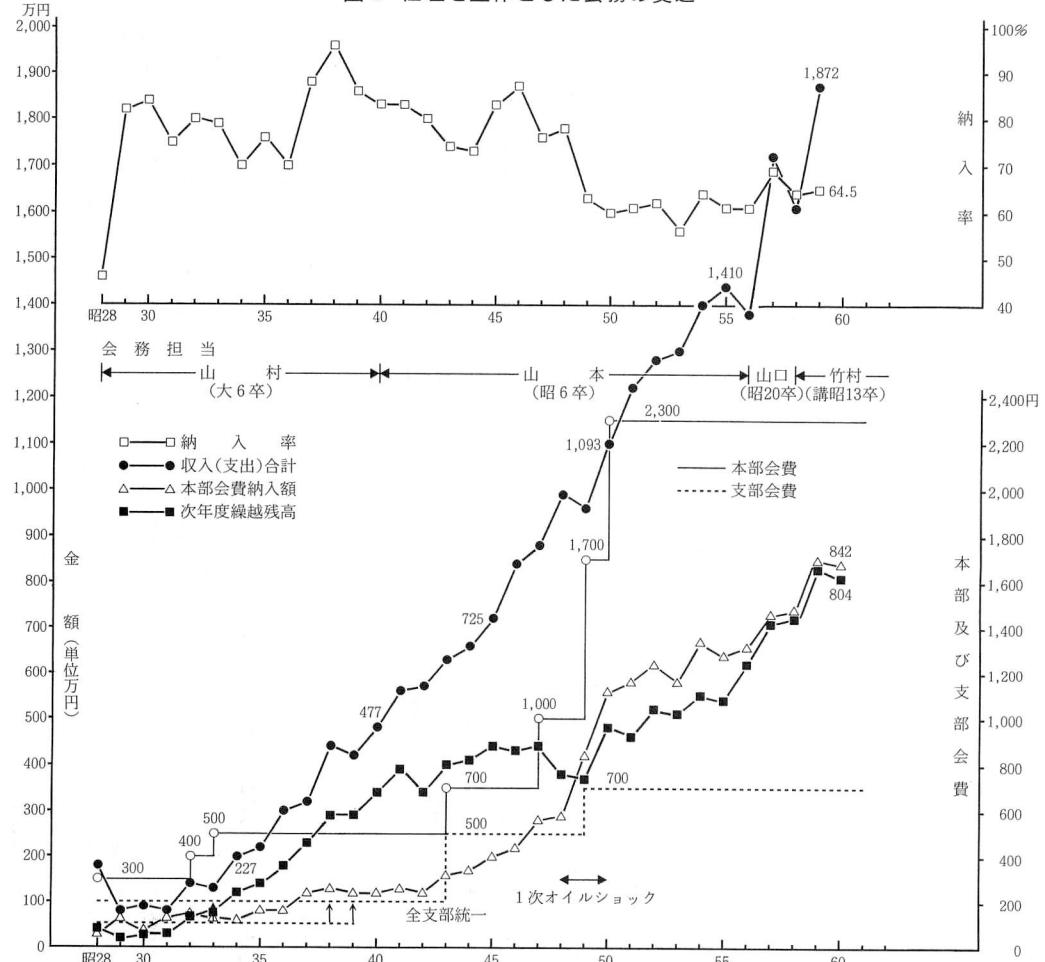


図2 経理を主体とした会務の変遷



四六八名に贈呈されたのみで、残余の会員の方でこれを一読された方は少なくないと存じます。二番煎の嫌いはあります、事務局の会務整理の意味を含めて34年間の会務の変遷をグラフで纏めましたので、その概要を発表させていただきます。

2、会員数の変遷

会員数は、洛友会会員名簿が創刊された昭和28年9月の第一号によれば、すなわち洛友会発足当時の会員状況は、総員二、一〇六名。

この内、居所判明者一、五四三名、同不明者二四〇名、物故者三〇名となつていて、特意すべきことは、この会員総数であつて、この数字は東京大学工学部の電気工学科のそれを可なり上廻るものである。これは我が国の工業技術の発展のために、できるだけ多くの技術者を養成することが必要であるとの考え方から、我々の電気工学科では大正11年には早くも入学定員五〇名としたことによる。

と30年史には記載されている。洛友会の創立以後、現在に到るまでの会員数の変遷をグラフで表示すれば図1のようになる。

昭和61年9月現在では、電気系卒業生五、七九三名、内大学院のみ卒業生一八七名)、居所判明者四、七六六名、同不明者一二五名、物故者九五二名。

卒業年度別会員数調べ

年 度	総 数	居所 判明	居所 不明	物故	年 度	総 数	居所 判明	居所 不明	物故	年 度	総 数	居所 判明	居所 不明	物故
明34	6	0	0	6	昭7	50	28	0	22	昭36	82	78	2	2
35	7	0	0	7	8	49	28	1	20	37	74	72	0	2
36	11	0	0	11	9	47	25	0	22	38	50	87	2	1
37	9	0	0	9	10	49	35	0	14	39	86	80	5	1
38	9	0	0	9	11	42	19	2	21	40	116	111	4	1
39	12	0	0	12	12	42	26	2	14	41	131	124	4	3
40	15	0	0	15	13	48	37	0	11	42	127	122	5	0
41	20	0	0	20	14	46	28	7	11	43	117	110	7	0
42	20	0	0	20	15	46	23	3	20	44	132	129	3	0
43	19	0	0	19	16 ₃	54	40	2	12	45	141	137	4	0
44	22	0	0	22	16 ₁₂	56	42	4	10	46	126	121	3	2
45	21	0	0	21	17	68	45	3	20	47	127	120	5	2
大2	21	0	0	21	18	58	43	5	10	48	143	135	8	0
3	29	0	0	29	19	53	46	1	6	49	123	119	3	1
4	33	0	1	32	20	45	38	2	5	50	112	109	2	1
5	31	1	2	28	21	55	48	1	6	51	110	110	0	0
6	33	1	0	32	22	71	59	2	10	52	126	123	3	0
7	27	0	1	26	23	77	69	1	7	53	122	121	0	1
8	14	1	2	11	24	52	48	0	4	54	128	128	0	0
9	15	0	1	14	25	53	53	0	0	55	129	128	1	0
10	14	0	0	14	26	46	43	0	3	56	107	107	0	0
11	19	3	0	16	27	59	57	1	1	57	123	123	0	0
12	43	5	1	37	28	60	60	0	0	58	110	110	0	0
13	37	8	0	29	28 _新	53	51	1	1	59	111	110	1	0
14	48	15	0	33	29	73	71	0	2	60	127	126	1	0
15	41	9	3	29	30	61	60	0	1	61	109	109	0	0
昭2	54	17	0	37	31	52	50	0	2					
3	50	15	1	34	32	58	56	0	2					
4	52	21	5	26	33	66	63	1	2					
5	48	24	1	23	34	78	73	0	3	*	大学院	187	182	4
6	49	23	1	25	35	81	78	0	3	合計	5,793	4,716	125	952

※電気系学科の学部卒業生を除く。

(昭和61年9月現在)

卒業年度別会員数及び
支部別会員数調べ

前頁に掲載した洛友会会員数及びこれらの内訳数字は、その年に発行された名簿によるものである。昭和28年名簿創刊以来、昭和56年度までは毎年発行されていたが、会員の増加に伴い、事務局の事務量の軽減及び発行に伴う経費節減のため57年版から以後は隔年となり、更に59・60年版からは電算化されたことは、ご承知のとおりである。

本方式では後者を採用している。
(5) 次年度繰越残高
本項目は、会社会計でいえば利益に相当する部分であるが、この残高の多寡は、会の運営、活動に大きな影響を与へる。
当事者としては、この残高が前年度に比して減少しないよう会の諸経費を節減して、その増加をはかっていることは勿論であるが、名簿発行年などの場合は、この増加の鈍化、又は減少はまぬがれない。28年の三一円万円に対し60年では八〇四万円となり約二五・九倍の増加となっている。

隔年発行及び電算化により事務量は軽減されたが、総会員数や居所不明者等の内訳が隔年しか判明しないという不便が生じたので、今後は名簿不発行年の会報7~10

卒業年度別会員数調べ(講習所)

年 度	総 数	居所 判明	居所 不明	物故	年 度	総 数	居所 判明	居所 不明	物故	年 度	総 数	居所 判明	居所 不明	物故
大 4	37	0	0	37	大14	18	18	0	35	昭10	33	12	7	14
5	42	0	0	42	15	12	12	0	28	11	40	19	9	12
6	49	2	1	46	昭 2	58	14	23	21	12	56	27	17	12
7	40	6	0	34	3	66	10	17	39	13	44	19	13	12
8	52	4	0	48	4	57	12	23	22	14	67	28	23	16
9	63	3	0	60	5	35	9	6	20	15	55	28	8	19
10	62	10	0	52	6	56	18	17	21					
11	70	6	0	64	7	39	11	11	17					
12	54	15	0	39	8	22	9	6	7					
13	49	11	0	38	9	39	14	11	14	合 計	1,278	317	192	769

(昭和61年9月現在)

支部別会員数調べ（居住地別による）

関西支部	2,134名	中国支部	167名	北陸支部	80名
東京支部	1,975名	九州支部	146名	東北支部	48名
中部支部	359名	四国支部	108名	北海道支部	15名

月号に題記の一覧表を掲載し、会員並びに支部役員のご参考に供したいと考へ、特に本号に掲載させていただきました。

第6回
洛友デル夕会総会記

雨前線の影響で天候が気掛りであつたが、幸い当日は曇天でまずまずの初日のふたをあけることが出来た。

当日 東は東京、西は九州から
会する同窓生総数54名、先づ総会が
会場である鴨川河畔の近畿地方発
明センターに集合する。ご承知の方
ごとく当センターは、藤村俊一氏
(昭11)が常務理事に就任されてい
るので準備万端OK。
定刻1時に藤村氏司会(議長代
行)のもとに開会。

市川龜久彌氏(昭13)の開会の辞に続き、今は無き恩師並びに会員に対し、哀悼とご冥福を祈り默禱を捧げる。続いて越坂延夫氏(大10)が元代表で昭和60年12月に物故された立石享三氏(大5)に代つて挨拶をされる。挨拶中で今後増えることのない会員はますます健康に留意して余生を全うすると共に会員相互の結束を固め、洛友会

(1) 当デルタ会代表であった立石氏の死去に伴い、後任として越坂氏(大10)を推薦したいとの提案に対し、全員異議なく賛成。

(2) 故関野先生夫人奈美様死去の報告あり。一同ご冥福を祈る。

(3) デルタ会基金返却の件については、中野壯二氏(昭12)が醸出された七四万円を返却するに至るまでの経緯について詳細な説明がなされた。これに対し、一部会員から、基金の性格及び返却方法について質問があり、これらについて質疑応答がなされたが一応の了解が得られたので、次の報告に移る。

(4) 昭和年代居所不明者の処置については、現況の報告と、前回行なった大正年代と同様の方法で、洛友会員名簿発行時に、昭和2年(昭和15年までの該当者を3回に分けて処置することとし、全員異議なく賛成。続いて

(5) 洛友会幹事に神戸氏(昭14)が就任の報告があり、了承。

次に昭和59、60年決算報告が、市川盛治氏(昭13)から、また同監査報告が湯浅幸雄氏(昭12)から行われ、これらに対しても出席者一
この後、幹事長神戸俊夫氏(昭14)から次のような経過報告がなされた。



この後、木村広美氏(昭12)が閉会の辞を述べられ、総会は午後3時無事終了した。
引続いて“センサと電子材料”と題して京大・電子教室川端昭教授の講演が行われた。先生は、配付された資料とOHPを駆使して、時代の先端を行くセンサ素子を中心として、これらに使用されている金属、半導体、誘導体、磁性体について、我々年輩者にもよく理解できるよう、明確且つ懇切に講演していくだけだ。

居所不明者一覽表

昭和61年9月末現在
表中敬称略

お陰様で洛友会会報も4月号発行部数は5,009部(内返送46通、返送率0.92%)、7月号は4,987部(内返送49通、返送率0.98%)となり、返送率もやっと1%を切りました。その後の調査で下記会員各位の住所が判明致しませんので、"居所不明者"として登録する前に掲載させていただきます。幸いなことに掲載会員中1名を除き勤務先が判明しておりますので、同一勤務先の方、同期の方、若しくは、当該会員のご消息をご存知の方は、お手数ですが事務局までご連絡を賜りますようご協力の程お願い致します。

なお、卒業年次の次の数字は、1：電気、2：電子、3：電Ⅱを示します。(本表中には、海外駐在者で居所不明者及び電気工学講習所卒業生の分は除外しておりますのでご了承ください。)

卒業年	氏 名			勤務先	卒業年	氏 名			勤務先
昭22	松浦	巖	大伸機工		昭49.3	吉田	智和	住友金属工業(海南)	
31	杉山	宏	N T T(武藏野)		50.1	夏目	弘明	三菱重工	
36	久下	栄司	N E C(アメリカ?)		50.3	小林	正和	川崎重工	
36	高口	穎三	三井物産(海外?)		52.3	白川	雅俊	東芝(日野)	
37.1	若林	格	電源開発		53.3	土井	一	N T T	
38.2	中村	英毅	N T T		54.1	星川	健	松下寿	
39.1	柏村	卓男	N T T(横須賀)		54.3	澤田	和男	ファナック	
41.2	安井	敏雄	日本I B M		54.3	花田	俊一郎	富士電機(東京)	
43.1	山添	敏博	松下電子部品		55.1	永金山	秀章	東洋電機製造(京都)	
43.3修	的場	徹	日本原子力研究所		56.2	内谷	裕敏	日立(海外?)	
44.3	植村	治	富士通		56.2	中堀	彦彦	三菱電機(京都)	
45.3	中島	俊雄	N E C(玉川)		56.2	堀林	孝仁	N E C(府中)	
46.3	橋本	茂雄	日立(大みか)		56.3	小田	修	N H K(福岡)	
47.1	東敬	敏	九州電力		57.2	多篠	毅	ペイオニア	
47.2	西村	守康	三菱重工(神戸)		57.2	木	宗夫	ソニー	
47.2修	浅野	正吾	N T T		57.3	飯塚	和千	中部電力	
48.3	仙波	洋	古河電工(大阪)		57.3	加藤	信	中部電力	
49.1	津田井	昭彦	科学技術庁		58.1	田中	博	三菱電機(制御)	
49.2	今福	英一	?		58.3	西志	一	日立エネルギー研	
49.3	朝日	隆一	東京電力		59.1	方橋	徹	インテルジャパン	
49.3	竹内	靖	日立(戸塚)		60.1	高		古河電工(横浜)	

計42名

事務局だより

各年次同窓会
幹事各位へのお願(い)

各卒業年次の同窓会は、同級生の親睦、情報交換などのため定期的、又は5年、10年等の節目に開催されています。この際幹事の方は、案内状の宛名記載にはご苦労のあることと存じます。

長かった夏もやっと終り、お彼岸の中日を迎えた今日この頃会員各位にはご健祥のこととお喜び申し上げます。

定期刊行物の編集者としての最大の悩みは、寄稿が少くなく発行予定ページ数に達しない場合です。といって編集者が穴埋めをすれば個人冊子の感を呈します。今月号もいさかこの感なきにしもあらずですが、この苦衷をご賢察の上奮ってご寄稿の程お願い致します。

(1) 申込期日は、会報発行月（4
7、10、1月）の一ヶ月前とします

(2) ラベルは24名分がB4判一枚
に印刷されます。従つて各人ごと
に切断する必要があります。

(3) ラベル裏面は糊付されていま
せんが、市販のB4判の糊付用紙
に転写してご使用は可能です。

(4) 無料サービスの代償として、
名簿の正確を期すため会員の住所
・勤務先・内容等に変更のあつた
方のご連絡を賜りたいこと。
なお、本件に関してのお問合せ
は事務局（竹村）まで。